

ります。説明の便宜の爲に、買付に關する金融組織の最も完全致して居ります米國に就いて主として説明致して、他の場合はこれと異つた點だけを述べることゝ致します。

アメリカに於ける棉花の産地は南部テキサス州を主と致します。それでテキサスに棉花集散の大市場があります、即ちダラス、フォートオース等であります。この集散地には棉花取引所もありまして、我國の棉花輸入商は是等の都市に支店を置いて買付を致して居ります。取引所にも買入れますし、棉花商よりも買入を致して居りますが、又奥地に人を派して棉花の生産者より直買をも致して居ります。それで買付資金は先づこの奥地の分から始めねばなりません。この奥地の小市邑にをきましては、無論現金買付もあります、少し大きな所になりますと、その地に於ける地方銀行にて棉花の荷爲替を取組むのであります。即ち奥地から棉花の集散地に於ける輸入商の支店に送りまして、これに宛て、爲替手形を振出す、手形には買入れたる棉花の貨物引換證を添へまして、地方銀行に割引を依頼して得たる資金を以て、棉花買入の支拂に充てるのであります。ダラスとかフ

ォートオース等の集散地に於きましては、棉花商はコンプレスとかジンとか申しまして、棉花壓搾荷造工場又は繰綿工場等を持つて居ります。これ等の工場でそれ／＼輸出に適するやうな荷造をいたしまして、輸出港であるところのガルベス、トン、ニューオリンズ等の港に送るのであります。その時も荷爲替を組みまして、この資金に依つて前の奥地の地方銀行から取立に參る手形の支拂に充てます。この資金に於ては、船會社に棉花を引渡して船積の上船荷證券を受取つて、この船荷證券を添付致しまして、豫て日本向輸出について約束をしてある我國の爲替銀行の紐育支店又は日本と爲替關係のある紐育にをける外國銀行に宛て、手形を振出し、その割引にて得たる資金を以て集散地から輸出港に向けたる手形の支拂に充てます。

斯様にしまして棉花は輸出港から直ちに日本に向けて輸出せられますが、手形は船荷證券と共に一先づ紐育に參りまして、茲に初めて日本向の輸出手形となつて日本に送附せらるゝのであります。以上の奥地並に集散地に於て棉花の買付をしましてから日本向の輸出手形となります迄に、約十日以上の日子を要する次

第であります。印度に於ける奥地の買付は大體米國と同様の徑路でありまして、地方銀行に於ける融通もあります。土人對手の買付は多く現金支拂でありまして、孟買にて爲替銀行に日本向手形を賣つて買入代金を支拂ふのであります。支那に於ける奥地の買付は多く現金支拂であります。これも天津、漢口、上海等の市場に於て初めて日本向の手形の取引となる譯であります。以上述べました如く、奥地並に棉花集散地にをける買入資金は或は現金に依り又或は地方銀行よりの融通にて得られますが斯くしても尙このステップの間々で資金が入用になるので、それで棉花商は前にも申しました通りに、爲替銀行にて豫て信用狀金額の範圍内に於きまして爲替前貸金の約束を致して、それ等の資金は前貸金によつて支拂つて居るのであります。尙ほ紐育の場合の如きはこの前貸の外に、爲替銀行が棉花商の振出す手形に紐育に於ける銀行の引受を求めまして、所謂銀行引受手形として市場に賣出して、これを以て爲替資金をつくることも出来るのであります。印度の場合の如きは爲替前貸金が非常に多いのでありまして、期間も時には二ヶ月位に亘ることがありまして、嚴格なる意味に於ける爲替前貸とは違ひますけれども、信用狀の金額を限度として買入資金の前貸を爲すといふ點に於ては同一であります。

棉花輸入爲替

次に爲替相場の關係を述べますが、我國におきましては棉花は總て外國よりの輸入に待たなければならぬ。それで棉花商は紡績會社の注文又は自己の思惑で米國、印度、支那等に注文を致します時には棉花の相場のみならず其の棉花代金として海外にて支拂を要しますところの外國貨幣に對する爲替相場が又棉花買入原價を決定致します主要なる部分を形作るものであります。例へば百萬弗の棉花に對しまして、爲替が平價の場合には二百萬圓を支拂へば足りるところを、爲替が低落致しまして四十弗とすれば二百五十萬圓を要する譯である。而して大正十三年度におきまして又同十四年度に於ても僅かに一ヶ年の間に、爲替相場は一割乃至二割以上も上下致して居ります。斯様な次第でありますから、棉花の買注文には必ず爲替の取極めといふものが伴ふのであります。故に棉花商は米國に

棉花の買注文を出すと同時に爲替相場の豫約を致すのであります。現在に於ては輸入棉花の爲替は多くは爲替銀行の紐育支店で相場を取極める。その取極めた金額に基いて内地の爲替銀行におきまして圓信用狀を發行致しまして、この信用狀に基いて振出したるところの圓手形が紐育支店にて取引されて内地の爲替銀行に送附せらるゝのであります。固より日本におきまして弗貨信用狀を發行して、これに基いて弗貨の利付手形として日本に参りまして爲替は日本にて取極めることも出来るのであります。近年の如き圓貨が甚だしく低落致して圓の價格が不安定の際は、爲替銀行は弗の信用狀の發行を好みませぬ、従つて實際は圓の信用狀となつて居るのであります。ところが近頃圓の回復が著しくなるに従ひまして、弗の信用狀の依頼をなす向も生じて來たのであります。殊に最近紡績會社が棉花會社より棉花を弗にて買取ります、そして爲替の取極めを將來有利の時に延ばすと云ふやうなことが行はれて居る。印度におきましても紐育と同じく圓の信用狀を普通と致しますが、印度と日本と英國とにおける資金の關係上から、磅信用狀の發行も爲し得るのであります。埃及棉の如き場合におきましては、埃

及と我國との直接爲替を取極めますよりも、倫敦を経て決済する方が便利が多い、即ち爲替相場が有利であります。爲に、磅爲替の信用狀を發行致します。爲替銀行の倫敦支店に利付手形の買取指圖書を發行致します。さうすると埃及における棉花商がこの信用狀に基きまして、日本における棉花商宛の磅貨の利付手形を振出して、これを埃及における倫敦銀行の支店又は取引先にて取引を致します。斯くして得たる資金を以て棉花の買入れを爲すのであります。さうして手形は倫敦の銀行に送附せられて、日本の爲替銀行の倫敦支店でその利付手形を買入れまして、その手形は倫敦から日本の爲替銀行に送附し來り、棉花商の引受を求むる順序となるのであります。而して船荷證券は埃及から直接に日本の爲替銀行に送附して参るのであります。或は埃及に於けるレートの關係より倫敦アクセプトタンスとして爲替銀行の倫敦支店宛の手形となつて倫敦に参り、此の手形を決済する爲めに内地より電信送金をなす場合も多くあります。以上申し述べました如く、種々の信用狀に基いて振出されたる手形は、紐育、孟買、上海などから日本に到着致しますると、爲替銀行はこれを輸入商に呈示引受を求めて、支拂期限はその引

受後紐育の場合は普通九十日、印度の場合は六十日又は九十日、支那の場合は三十日もあります。引受後の満期日には長短はありますが、何れも引受後支拂期日又はその以前にその手形の支拂を致しまして船荷證券を受取るのであります。又支拂をせずにトラスト・リシートと申しまして、船荷證券にて代表せられて居る棉花を銀行の代りに保管するといふ證書を入れまして、さうして船荷證券を受取る場合もあります。而してこの船荷證券さへあれば棉花は何時にても受取ることが出来ますから、棉花は船荷證券を以て賣買せらるゝのであります。又たビーエルにて船會社から棉花を受取りまして、倉庫に入れて倉庫證券となつて轉々賣買せらるゝのであります。何れにしても銀行は棉花商に船荷證券を渡します時は、或は信用を以て一定の限度だけ貸渡すことがあります。或は擔保を取つて渡すのであります。この擔保は多くは棉花商の銀行預金證書、棉花商が紡績會社より得たる受取手形たる所謂紡績手形等でありまして、

我國においては前にも述べました通りに原料棉花の全部を輸入に仰いで、その金額は大正十三年度の如き六億五百萬圓に達し、大正十四年度に於ても九億二千

三百萬圓にも達する巨額であります。而もその多くが九月頃から十二月頃までに纏つて注文をされます。爲めに棉花の輸入爲替の手當が爲替市場における影響は頗る重大なるものであります。又斯くして輸入せられる棉花の決済資金が金融市場に重要な關係を有することは明かなることでありまして、爲替相場の低落はこの棉花の輸入原價を騰貴せしむるものであることは今更説明するまでもないことでありまして、現に我國の對外爲替相場の低落を、大正十三年度を通じて平均二割と見ますれば、棉花の輸入せられた六億圓は、實は爲替平價の場合におきましては五億圓で済む譯であります。差引一億圓だけ棉花の原價を高めたのであります。併しこの輸入棉花は、これが綿糸布となつて輸出せらるゝものが多いため、一億圓全部が國民經濟における爲替低落より生ずる損失といふことは出来ないのであります。輸入棉花の幾割が輸出品として製造せられ、幾割が内地消費となるかは正確に知ることは甚だ困難であります。大正十三年度の綿糸の出來高は二百七萬捆であります。その中輸出高は一割三分で、織布用の需要高が二割九分、内地の消費高が五割八分と云ふことになつて居ります。織布の出來高の

十億ヤードの内、輸出は七割二分であります、内地消費は二割八分であります。併し綿糸の内地消費高五割八分の内にどれだけ輸出綿布に需要せられたかは不明でありますから、輸出品としての綿糸消費高を正確に知ることは出来ないのがあります。併し見方を變へまして、大正十三年度の輸入棉花が六億五百萬圓としまして、二捆の紡績工費を五十圓とする綿糸の製品が二百七萬捆といたしますれば、工費の合計は九千三百萬圓、尙ほ綿糸一捆に就きまして紡績會社の收めたる利益を平均十五圓と見まして三千一百萬圓、合計一億二千四百萬圓を輸入棉花代金に加へまして、その合計の七億三千九百萬圓から、輸出致しましたる綿糸、綿織物その他の合計四億五千八百萬圓を差引きますと、二億八千百萬圓が内地消費高となります。さうすれば輸出は六割二分弱、内地消費は三割八分強となるのであります。それで大體におきまして輸出綿糸布に使用せられたる原棉が六割、内地消費に使用せられたるものが四割と云ふ位に見て、大正十三年度の實際に適合して居るやうに思はれるのであります。さうすれば輸入原價の總額六億圓の内の一億圓だけが爲替が低落した爲に多額の支拂をなしたことになるが、その内六割は輸

出せられて輸出の時に爲替低落の爲に利益を得て居りますからこれで相殺せられて、内地消費の部分に對する爲替低落の負擔は四千萬圓に過ぎない、さうすれば全輸入額に對しまして漸く六分五厘に相當して居るのみであります。これは棉花が爲替低落の爲に二割以上も高く買入れられて居りまして、我々が内地に消費する綿織物はそれだけ騰貴しなくても宜いと云ふ理由を述べたのであります。前にも述べましたる通りに輸入棉花に對する爲替の手當は大體に九月頃から十二月迄に纏つてなされて、翌年二月頃までに一段落となりますから、この期間は我が對外爲替相場は概して弱含であります。大正十三年十月に對米爲替が三十八弗に低落し、それがその儘に繼續して年を越えましたが、十四年二月半ばから強調に變じまして、遂に一時四十二弗までも回復しましたのは、その原因は種々ありますが、右に述べた通りに棉花輸入爲替手當の初期に軟調を呈し、その手當が一段落付いた爲に強調に轉じたと云ふのが、主なる原因であつたに相違ないのであります。大正十四年度は米棉の買付が少し例年よりも早くありました爲に、棉花輸入爲替の爲替市場における影響も前年よりは稍早く、八月末に早くも爲替相場は低

下致し、十月下旬まで四十弗二分の一見當を示して居つたのであります。然るに大正十四年上半期の棉花の輸入額は前にも述べました通り頗る多額に上りました爲に、前年度と違つて大正十四年度は棉花を次の年度に持越す位までになつて居ると云ふところから、今後の輸入が最早左程多くはないと云ふ見當が付いたのと、それに一般貿易の好轉と民間外債の發行等に依り、本年度(大正十四年)における國際貸借の決濟にも略々見當が付いて參りました。又政府の正貨現送が紐育市場にて好評なりし等の爲に爲替は十月末から四十一弗に上り、漸次騰貴致しまして十一月の二十七日には遂に四十三弗を突破するに至つたのであります。

茲に一寸爲替銀行の棉花手形買取資金のことに就いて述べて置きます。爲替銀行の紐育、孟買、上海等の支店におきましては棉花商に對して棉花買入資金を供給しなければならぬ爲に、即ち棉花輸出手形の買入の爲に巨額の資金を要するものであります。これは固より日本の輸出の大宗でありますところの生糸の輸出手形を買入れて、これを紐育に送つて取立てたる資金が棉花手形の買入資金になることは勿論であります。その他一般に輸出手形の外國において取立てられた

る資金を以て、外國における爲替資金を調達するのであります。日本は御承知の通り近年輸入超過でありまして、輸出手形の買入だけで外國における爲替資金を調達することは不可能の事であります。それでその時々には、銀行者間の電信爲替の賣買によつて資金を得るのでありますが、結局のところ貿易關係並に貿易以外の勘定に於て支拂超過になりますだけの金額は、日本から現金を送るか、外國で借金をするより外はないのであります。それで政府並に民間の外債發行がありますれば、その外債によつて得たる金が、この決濟資金になるのである。又政府から政府の所有して居る在外正貨を拂下げて、これを以て爲替資金となして居る。又爲替銀行は自ら外國において取引銀行から借入金をしてこれを以て爲替資金を供給して居ります。外國において爲替銀行が借入を爲しますには、或は外國において持つて居ります擔保品を以て借入れる場合もあります。時に内地におきまして日本銀行、正金銀行等に公債を供託しまして、これを擔保としても外國において借入が出来るのである。又外國に於て所謂輸出手形の引受を銀行又は手形引受業者等に求めて、之を市場に賣出してこれに依ても資金を得られる

(日本に於けるスタンブールに相當するもの)。斯様な種々な方法に依つて買入資金を調達するのでありますが、詳細なことは爲替業務のテクニクに當ることである長くなりますから、唯これだけの事を附加へて置きます。

以上説明致した通りに、棉花手形が内地において引受後六十日乃至九十日の支拂期日に、棉花會社はこの手形の決済をしなければならぬ。この支拂に要する資金の需要を金融市場にをきまして輸入棉花の決済資金、又は棉花代金決済資金、或は棉花手形決済資金等と申すのであります。この棉花代金決済資金は固より年に依て金額が違ふので、棉花の輸入が多い時は従つて決済資金も多い譯であります。過去二三年間の資金の模様を見ますと、例年最も決済資金の需要の多いのは三・四月より七月迄であります。四月より棉代累増期に入るなどと云ふのは、この棉花手形決済資金の需要が四月から累増すると云ふことでありまして、大正十四年度の如き多い月には七八千萬圓或は一億圓に近い決済資金を要した程であります。大阪金融市場殊に短資金融が四月から二三ヶ月の間常に強調を保つて居りますのは、主として棉花手形の決済に要する資金の需要が増大する爲であります。

而して輸入棉花が紡績會社の手に移つて後のことは、紡績手形の問題であります。その以前のこととは右に述べました通り、棉花會社の輸入手形決済資金借入の問題であります。大正十四年上半年期に於ては、この棉花輸入商の銀行借入金並に支拂手形の合計は三億圓以上に上つて居ります。序に申しますが、東京の金融市場は四月、五月は常に金融緩漫であります。然るに大阪は少しく緊縮を致すのであります。既に屢々述べたる如く大阪の金利は東京より安いのが例であります。がこの時期には却つて大阪の金利が稍引締る、殊にコール翌日物は月によりて甚しく強調を呈します。これは大阪に於ては棉代決済資金需要の影響であり、この棉花代金決済資金として支拂を受けた爲替銀行はその資金を東京に送金する。斯ういふ爲に東京が幾らか緩む、これは所謂資金の東送と稱せらるゝものであります。尙ほ東京方面のこの時期に緩む一つの原因として、六月より生糸資金が多額に需要せらるゝのでありますから、その準備の爲に手許を豊富に致して居ると云ふやうなことも多少影響するのであります。

紡績手形

是迄の説明で棉花は外國で買付けられ、それが日本に積出され、その代金支拂ひのことまで述べたのであります。然るにこの棉花が日本に到着しますれば、棉花會社はその買主であるところの紡績會社に引渡すと云ふ順序になるのであります。一體紡績會社自身は棉花の買付を原産地においては致さない、日本における棉花の輸入商、即ち普通云ふ棉花會社から買取るのであります。棉花會社は紡績會社の注文によつても買付けますし、自己の思惑に依ても買付けるのであります。が、何れ棉花が内地に到着致します頃までにはその棉花は紡績會社に賣付けてある譯であります。それで茲に棉花會社が紡績會社に賣渡した棉花の代金は、どうして支拂はれるかと云ふ問題があります。棉花の代金は普通この輸入港であるところの、主として神戸、大阪或る小部分は横濱に棉花が到着致しました後、三十日又は六十日に支拂ふ事になつて居ります。それで紡績會社は棉花會社に對して棉花到着後三十日若くは六十日の支拂期限を附したる手形を渡し、棉花の受渡を

見るのであります。この手形が即ち金融市場で申す紡績手形であります。併し紡績會社は何も手形を以て支拂をすると云ふ事には無論限らないのであります。或は銀行から借入金をして現金を以て支拂ふことも出来る。又自分の持つて居る銀行預金を引出して支拂ふことも出来る。紡績會社が現金拂ひをなす時には當時の紡績手形の市場割引率より一厘下げの割引をなす例である。それで紡績會社がどれ位の銀行の借入金並に支拂手形を持つて居るかと云ふことを調べて見ると、大正十四年の上半期に於ては一億五千萬圓位であります。併し大阪附近の大紡績會社を見ますと、殆んど借入金を爲して居りませぬ、又支拂手形の金額も極く少ない、これは近時紡績會社の業績が頗る良好でありまして、棉花代金の支拂を現金を以てするものが多く、手形を振出すものが少なく、又銀行から借入金を以て支拂ふ必要がない爲であります。今紡績會社の支拂手形の總額が一億五千萬圓と申しましたが、一方棉花會社の受取手形即ち紡績會社が引受けて棉花會社に棉花代金として交附致しました手形にして尙棉花會社の手に保有されて居るものは、大正十四年の上半期に約九千萬圓となつて居りますから、尤も紡績會社と

棉花會社の各決算期に多少一致しない點もありまして正確には云へませんが、この一億五千萬圓の紡績會社の支拂手形より棉花會社の九千萬圓の受取手形を引きまして、残り六千萬圓がその當時金融市場における紡績手形の概算と申す事が出来るのであります。所謂紡績手形が大阪市場にどれ位あるか、これは元より年に依り又一ケ年の内でも時期に依り非常に異つて居ります。前にも述べた通りに、紡績會社が近頃の如く利益が多い時には、紡績手形の出廻りは自ら少額になる譯であります。のみならず紡績手形が市場に出ない今一つの原因としては、棉花會社も手許が潤澤な爲に、紡績手形を紡績會社から受取りまして、之を市場で割引せず、手許に保有して居ると云ふ事もあるものであります。抑も紡績手形は棉花會社が棉花代金として受取つたものでありますから、棉花の仕入時期が最も多額である譯であります。棉花の註文は御承知の如く九月から十二月迄が最も多い時期であります。棉花が日本に到着するのは十二月より翌年三月までが最も多く、印度棉は時期が少し遅れて着荷は二月より五月までが最も多いのであります。それで之等の時期に註文した棉花が内地に着荷しました時から二三ヶ月の

間が、紡績手形の最高額を示すべき道理であります。現に近年における最も多額の時期は四月から七月までの間であります。大正十二年度に於ては紡績手形の最高残高を示したのは七月でありまして四千六百萬圓、最低残高は二月の一千四百萬圓であります。大正十三年度に於ても最高残高は六月の四千七百萬圓、最低は十二月の千三百萬圓、大正十四年の最高残高は七月の六千百萬圓で、最低は一月の一千五百萬圓であります。大正十四年四月より九月まで紡績手形は六月七月に於ける五、六千萬圓を除いては常に四千萬圓見當を示して居りまして、前年、前々年に較べますと出廻りが多少多いのであります。之は全く棉花輸入額の同年殊に多額であつた爲であります。尙紡績手形に關係して擔保付貸出の事を一寸申しますと、前にも述べた通りに、紡績會社は今日の狀態では原棉擔保の借入は殆ど致さないであります。必要に依りましては信用借を爲すものはあります。然し原棉擔保の借入金を爲すのは小さい會社は或はありまして、殆ど稀であります。爲に、金額も極めて少額であります。今大阪市場に於て紡績會社に對する擔保付貸出を見ますと、大正十二年度に於ては九月の一千百萬圓が最高額である、最低額は

十二月の六百萬圓であります。大正十三年度に於ても最高残高は一月の七百萬圓、最低残高は十二月の二百萬圓、殆ど金融市場から見まして問題にならない程の少額であります。大正十四年度の最高残高は七月の九百九十萬圓、最低は一月二月に亘つて二、三百萬圓見當であります。八、九、十の三ヶ月にも常に八、九百萬圓を算して居ります。前年より殊に借入金額の増加したのは、之も全く棉花輸入が例年より多額に上り、原棉を翌年まで持越す必要がある爲と思ふのであります。

我國の紡績會社が他の製造工業に比して、金融上頗る有利の立場にあります。とは、紡績手形の割引率が普通の商業手形に較べまして常に二厘乃至三厘位の低率であると云ふことで、これは我國の金融市場に於て看過すべからざることであります。今兩三年の大阪金融市場における紡績手形と普通商業手形との割引歩合を比較して見ますれば、大正十二年度に於ては、紡績手形は一月より三月までは最高二錢五厘、最低二錢でありましたが、これは商業手形の最高最低率よりも共に二厘方下であります。四月より漸次高くなりまして、六月より年末まで引續き最高二錢六厘、最低二錢三厘に終始致して居ります。而して商業手形との開きは最

高最低共に一厘安であります。然るに大正十三年に於ては、漸次金融緩漫となりまして、四、五、六の三ヶ月は稍引締りましたけれども、七月以後は最高二錢五厘、最低一錢八厘でありまして、商業手形との開きは、最高に於ては僅かに一厘であります。が、最低率においては兩者の開きは三厘乃至四厘であります。大正十四年度は前年に於ける金利低落の後を承けまして、四月五月に至るまで金利は更に低落を續けて居ります。四月には遂に日本銀行の利下となり、紡績手形の割引率は漸次低下致しまして、一時最高二錢、最低一錢七厘を唱ふるに至つたのであります。最近大正十四年十二月においては最高二錢〇五毛、最低一錢九厘である。大正十四年四、五月の最低の時期に於て普通商業手形との開きは最高最低共に四厘の開きであります。以上の事實から我々は次のやうな關係を知ることが出来る。金融緊縮の時には紡績手形と普通商業手形との利率の開きは左程大きくない、漸く一厘位の開きであります。が、金融緩漫の時には紡績手形と商業手形の利率の開きが三、四厘と云ふが如く大きくなつて参ります。又紡績手形自身の最高最低率でも、即ち一流紡績手形と二流紡績手形の割引率にも非常なる開きが起つて参りまして、

六、七厘の開きもあるのです。尙ほ普通商業手形に於ては、金融のその時々
の状態に比較的影響が少ないのでありますが、紡績手形は金融の繁閑に依りて大
いなる影響を受くるものであります。大正十二、三年における普通商業手形の割
引率の變動は一ヶ年を通じまして一厘若くは二厘の高下であります。然るに紡
績手形はコールと殆ど同一の歩調を取りまして、其變動が數次である、又其最高最
低の幅も大きいのであります。大正十二年度の如きは紡績手形の最高率は、金融
の最も繁忙の時期と最も緩漫の時期とに二厘の開きがありますが、最低率即ち一
流紡績手形の利率は三厘の開きがある。大正十三年度に於ては二流紡績手形に
於ては三厘、一流紡績手形に於ては四厘の違ひがある。大正十四年度は財界多少
落付きたる爲め二流紡績手形の利率著しく低下し、一ヶ年を通じて利率の開きが
寧ろ二流紡績手形に於て著しく、一流紡績手形の二厘五毛に對し二流紡績手形は
三厘五毛の開きである。何れにしても普通商業手形の利率が一ヶ年を通じて僅
かに一厘若くは二厘の開きがあるのと比較して非常な違ひである。之は紡績手
形、殊に一流紡績手形が最も確實なる放資物件であつて、何時でも日本銀行に再割

引を致す事が出来る、即ちコールに次で準備金として取扱はるゝ爲であります。

綿糸代金の取立

紡績會社に依つて買取られたる棉花は、紡績工場において紡績をして綿糸とな
るのである。この綿糸の原價採算並に紡績會社の損益の問題は、これは金融に直
接の影響はありませんが、綿糸の海外輸出のことを述べる際に参考にありますか
ら極く簡単に申述べて置きます。大阪三品取引所の左撚二十手の標準糸の原價
採算をして見ますと、先づ混棉の割合であります。これは米棉二割、印度棉八割で
あります。その印度棉の内にも高價の棉と安い棉を使ふのであります。是等の
混棉を致しました結果、綿糸一捆に要する棉花三百五十斤の代價を出しまして、之
に工費として先づ約五十圓を加へ、さうして原價を出すのであります。最近の十
四年十一月末の原價計算に依りますと、棉花の代金が二百十圓七十錢、工費五十圓
としまして、綿糸の一捆の原價が二百六十圓七十錢となつて居るのであります。
而して當時綿糸の相場一捆二百九十五圓位でありますから、茲に一捆につき三十

四圓三十錢の利益となる譯である。この原價計算は元より糸の大小に依て使用します棉花が違ふのであります。又た工費が違ふのでありまして、是等の精しいことは専門に亘りますので省きますが、混棉以外にも或は落棉屑糸の價格のことであるとか、印度棉に就ては運賃の戻り等の計算で頗る複雑になつて居るのであります。次に紡績會社の損益計算でありますが、これは必ずしも綿糸の原價計算に依て知り得るものではないのであります。主として原棉買付の巧拙に依て決せられるのであります。それは原價計算に用ゆるところの原棉相場は、現在の相場を標準と致して居りますが、紡績會社の使用原棉は既に過去において買付済のもので、殊に我國におきましては、地理的關係その他に依て、一ケ年に要する原棉の大部分を九月から十月までに注文を致して、大きな紡績會社に於ては六ヶ月先位までの原綿手當を致して、二、三ヶ月は綿糸の先賣約定を致して居ります。斯様な次第で、原棉の買入時期と綿糸の販賣時期とに原棉の相場に變動があります。これに依て紡績會社は損益を得ることになるのであります。大正十三年度に使用せる原棉仕入の時期即ち大正十二年の末より同十三年の初頃には爲替が四十六

弗乃至四十八弗位であつたのが、大正十三年四月から爲替が著しく低落しまして、爲に假令原棉産地の相場は、買入當時よりも夏秋に至つて甚しく低落したるに拘らず、爲替關係において二割以上も差異がありましたので大なる利益を擧げるところを得たのであります。

紡績會社が製造したる綿糸を賣却しますには、所謂綿絲商に對して賣却するのであります。綿絲商と云ひますと、棉花輸入を取扱ふ大きな棉花會社もその一であります。その他大阪市場に十四、五軒の重なる綿絲問屋があるのであります。尙ほ東京、名古屋方面にも五六軒ありまして、是等の綿絲商に直接販賣をするのであります。大阪には三品取引所と申しまして、現在綿絲のみを取扱つて居る取引所があります。この取引所を利用して紡績會社は綿絲を販賣するや否かと云ふことであります。これはこの市場が極めて範圍が狭い、受渡の品物にも制限がありません。爲めに、紡績會社は三品取引所を利用して綿絲を賣ると云ふことを致さないのであります。それで紡績會社が綿絲代金を受取る方法としては、綿絲問屋との關係のみであります。而して今日においては全く現金拂ひになつて居るので

あります。併し以前は毎月末に支拂を致すといふ習慣があつたのでありますが、紡績會社が漸次勢力が強くなるに従つて、綿絲問屋に對して現金でなければ賣らぬといふ事になりました爲に今日は全部現金拂であります。その代り百圓に付五十錢内外の日歩の歩戻し——割戻しをするといふ例になつて居るのであります。この現金を取立てる方法は、紡績會社が綿絲問屋の註文に依て綿絲を送り届けます。綿絲問屋の指定する場所に届けると云ふ約束であります。その綿絲を運送會社に託して發送すれば、運送會社の貨物假受證又は倉庫會社の貨物到着案内、斯ういふ證書に紡績會社が領收證を添へまして銀行に依頼して取立をするのであります。即ち荷物が確かに紡績工場から綿絲問屋の指定する場所に發送されたと云ふ證書を領收證に附けて綿絲代金の取立を爲すのであります。又場合に依りましては、殊に多少遠隔の場所におきましては、紡績會社が綿絲問屋に宛てて爲替手形を振出して、引受を求めずに銀行に所謂無引受手形割引の依頼をする。手形は極く短期間で二三日若くは一週間位の期日であります。その手形を割引して代金を支拂ふ、斯ういふことになつて居るのであります。これが綿絲の内地

における賣却代金取立方法であります。ところがこの綿絲は紡績會社から綿絲商に移りました後に、或る部分は内地消費でありますから、それより或は機屋、即ち綿織物を造ります所に順次参りまして織物となるのであります。輸出する向は綿絲商の内有數なるものが主としてこれに當つて居ります。綿絲布の輸出商が輸出ビルを爲替銀行に買つて貰つて輸出綿絲布の金融をなすことは、丁度棉花の日本向輸出の時に紐育、上海に於ける爲替銀行との關係と略同様であります。支那向、印度向輸出ビルは圓手形で即ち利付手形を日本の爲替銀行が買取り、船荷證、其他附屬書類と共に爲替銀行の上海、孟買等の支店を経て取立てらるのであります。又濠洲とかアフリカ其他諸國への輸出ビルは磅手形で倫敦決濟の事となつて居ります。これは埃及棉輸入の場合と逆になる様な關係であります。此の事は前に述べた所で大體御了解が出来ると思ひます。只此所に述べたい事は、この輸出の場合において爲替相場とどういふ關係があるかと云ふことであります。

綿糸布輸出と爲替相場

大正十三年の初め四十六弗位の我が對米爲替が四月に至りましてから三十八弗臺に低落し、間もなく四十一弗臺まで恢復致しましたが、十月に至つて再び三八弗臺に低下して大正十四年二月まで三十九弗臺に止まつて居りました。同年四五月頃より漸次恢復致しまして、一時四十二 $\frac{1}{4}$ 弗までに至つたのであります。その後六月以來漸次低落致しまして、四十 $\frac{3}{8}$ 弗位までに至つたのであります。十月より多少恢復致しまして、年末に於ては四十三弗 $\frac{5}{8}$ までに至つたのであります。對印爲替も大正十三年の初めには百五十五留比位でありましたが、對米爲替の低落に依て四月には百三十留比まで低落致しました。その後英米爲替の漸騰に依て我が對印爲替は漸次下落しまして、十三年末には百十留比に下り、大正十四年初めには百六留比までに至りましたが、その後對米爲替の漸騰に伴れまして恢復致しました。十四年の四月頃には百十六、七留比を示し、年末に於ても猶ほ百十八留比位の相場を示して居ります。支那の爲替は大正十三年初め六十四兩であり、ます。これも對米爲替の影響を受けまして四月には五十四兩、年末には五十兩となりましたが、對支爲替は銀塊相場が一ヶ年を通じて三十三、四片を往來して甚しき

變動がなかつた爲に大體において對米爲替と歩調を一にして居ります。大正十四年三月には五十六兩位でありまして、その後對米爲替の低落と共に五十兩臺に下つたのであります。年末に於ては漸騰致しまして五十七兩位であります。

以上述べました通り我國における棉花の輸入に又綿糸布の輸出に大關係があるところの對米對支對印爲替は大正十三年以來共に甚しき低落を示して、對米爲替は同年の最も低い時には平價の二割三分の下落で、對印對支爲替は最高最低の差は、對印爲替に於ては三割一分、對支爲替は二割八分を示して居る。それで棉花の輸入に就いては、爲替相場の最も低い時米棉には二割三分、印度棉には三割一分、支那棉には二割八分の高價を支拂つたことになり、前にも述べました通り大正十三年度においては原棉の大部分の買付を爲した時には爲替相場は未だ左様に低落して居らなかつたから爲替において二割乃至三割の利益を得たる上、工賃に在りては二割五分乃至三割だけ對外關係に在りて低廉に販賣し得る状態になり、それ丈け海外市場に於ける競争力が大なる譯でありますから、綿糸布の海外輸出が極めて旺盛でありました。従て紡績會社の利益の増大致したのは當然

の事でありませぬ。假に我國の輸入棉花と輸出綿糸布と同一率の爲替で賣買されたとすれば、爲替の影響は大體にをきまして原棉に對する爲替低落の爲の値上りは、綿糸布輸出の際に爲替にて高價を得られるに依りて輸入と輸出との爲替に因る損得は相殺されるものである。唯紡績工費だけに就いて爲替有利の影響を受けるだけでありませぬ。併し實際にをきましては、輸入棉花を買取る時と綿糸布輸出の時期が違つて居ります爲に、爲替相場が兩時期に同じくない關係と、棉花の輸入には對米對印對支共にその影響を蒙りますけれども、綿糸布の輸出には主として印度、支那關係の影響を受けるのみでありますから、以上の關係が稍複雑になつて參ります。而して我が棉花の輸入は前にも述べました通り、大正十三年度においては印度棉が五割一分、米棉が三割三分、支那棉が一割一分、埃及棉その他が五分と云ふやうな割合であります。今後におきましては我國輸入棉花に對する各爲替相場の影響は大體右様の割合において來るものと見ることが出来るのであります。英米爲替が今日のやうに平價に近くなりました後は、支那印度共に對米爲替と同一歩調に變動するものと見て差支へないのであります。故にこの關係は

大正十三年度におけるやうな重要な關係はありませぬけれども、印度、支那爲替には銀塊相場の影響を受ける爲に、對米爲替に獨立して高下を生ずることもありますから、尙ほ相當に注意を要するのであります。紡績會社は、大正十三年度に於ては、原棉買付の大部分を終りました後に爲替が安くなりました、從て輸出の旺盛、輸出綿糸布騰貴の爲に異常の利益を擧げることが出来たのであります。ところが、大正十四年度に於ては、買付けた原棉は悉く爲替低落の爲に、高價の原料棉を手持致して居るのであります。それで若し爲替に大なる變化がなければ、原棉の爲に二割以上の高價を支拂つたものは、輸出したる綿糸布は支那にいては二割五分、印度において三割といふ爲替利益を得て、支那印度の棉花においては輸入と同一の爲替利益に依りて相殺され、何れにしても爲替關係においては左して大いなる損失がない譯で、且つ工費につきましては爲替低落に依り有利なる關係がありますから、綿糸の相場を假に三百圓、工費を五十圓としますれば、全體の輸出價格の一割四分丈けに就ては爲替が低落して居りますだけ、海外市場において有利に競争し得る餘地がある譯であります。ところが爲替が大正十四年二月頃から漸次恢復

致しまして、一時六月より九月頃まで低落をいたしましたけれども、最近又復非常なる勢ひを以て恢復致して居る爲に、綿糸布輸出の將來に就ては相當の憂慮を抱く者も生ずるに至つたのであります。これは尤もの事でありまして、大正十四年度は紡績會社の手持となつて居る原棉は、爲替が最も安い時に買付けて居りますから爲替が漸次騰貴すれば原棉の價と綿糸布の輸出價との間に非常なる損失を受けるのであるばかりでなく、工費につきましても爲替有利の關係が漸次消滅致しまする爲に、爲替の騰貴は二重に不利の關係を生ずることになります。尙ほ今後紡績會社が使用致しまする棉花に就きましては、漸次爲替が恢復致しまする爲に、原棉の輸入價格は低落致しますと同時に、原産地における相場が豊作の爲に非常な低落を來しまして、その爲に大正十四年秋以後に買付けたる棉花は餘程割安になつて居る譯であります。但し綿糸布の相場が従つて低落致します。大正十三年度の如きは三百七、八十圓も致したことがありますが、大正十四年には相場が何時も三百圓内外であります。年末には二百七、八十圓臺である。斯ういふ譯でありますから、唯この爲替恢復が果して日本綿糸布の外國における競争力に堪へ

る以上に恢復致しました場合に於ては、綿糸布の輸出の將來は餘程考へなければならぬ事であります。然るに爲替は恢復することが常態であります。何人も爲替の恢復を希望し之れに對して最善の努力を爲なければなりません。此の常態である爲替相場の恢復に依りて輸出が阻止されると云ふことであれば、其の根本原因を究めて之を除くより外に致方がない。我棉製品が爲替相場の恢復に依りて其海外に於ける競争力を減ずるとすれば、吾々は之れに代はる武器である生産費の低廉を招來せねばならぬ。生産費の低廉は生産能率の増進と物價の低落に俟たなければならぬ。我國の物價を如何にして引下ぐ可きか。此の事は單に棉業關係ばかりでなく現在の我財政經濟一般に亘る最も重要な問題であります。私が曩きに金利高對策として述べたる所は或る範圍に物價問題の解決にも資する所ありと信じて居ります。

我國の金融市場（畢）

附
表

附表 No. 1

全國各種銀行營業一覽表

大正十三年十二月末日現在

摘 要	日本銀行	特殊銀行	普通銀行	貯蓄銀行	合 計
行 數	1	33	1,629	136	1,799
支店及出張所	15	196	5,324	565	6,100
	千円	千円	千円	千円	千円
公稱資本金	60,000	497,900	2,437,684	90,451	3,086,035
拂込資本金	37,500	414,301	1,507,750	36,397	1,995,948
各種積立金	65,405	200,678	585,229	2,310	872,622
賄預金	827,277	1,259,943	8,093,167	793,513	10,973,900
借入金	0	677,775	840,131	9,123	1,527,029
賄貸金	253,970	2,086,862	6,651,078	152,862	9,149,772
割手及荷手	510,976	721,892	1,638,061	35,188	2,906,117
預ヶ金	150,940	337,065	290,862	210,488	989,175
有價證券	240,909	575,784	1,880,467	443,925	3,141,085
金銀有高	298,636	110,935	695,511	14,930	1,120,012

備考 本表ハ大蔵省銀行局調各種銀行資産負債表ニ依ル

全國各種銀行營業一覽表

附表 No. 2

全國及六大都市手形交換所組合

年次	全國手形交換所			東京		大	
	交換所數	預金	貸出	預金	貸出	預金	
大正3年	6月末	11	1,024,721	1,099,839	480,623	474,054	215,424
	12月末	11	1,074,475	1,142,208	511,242	522,195	241,577
大正4年 1915	6月末	11	1,152,386	1,124,608	560,742	539,860	234,143
	12月末	11	1,348,318	1,274,292	631,351	559,839	316,996
大正5年 1916	6月末	11	1,551,202	1,688,910	748,530	884,610	367,017
	12月末	11	1,906,059	1,959,180	931,407	974,905	469,409
大正6年 1917	6月末	11	2,239,314	2,202,210	1,046,526	1,063,296	536,767
	12月末	11	2,970,516	2,632,022	1,457,236	1,261,361	782,875
大正7年 1918	6月末	11	3,496,973	2,952,231	1,660,812	1,295,631	961,039
	12月末	12	4,307,961	3,512,891	2,003,127	1,511,366	1,183,188
大正8年 1919	6月末	13	4,607,066	4,032,193	2,050,769	1,778,101	1,285,103
	12月末	13	4,975,596	4,516,260	2,174,289	1,853,354	1,417,839
大正9年 1920	6月末	13	4,868,251	4,803,877	2,141,319	2,100,603	1,330,540
	12月末	13	4,811,190	4,619,181	2,036,555	2,145,276	1,337,665
大正10年 1921	6月末	14	5,101,136	4,757,149	2,144,712	2,258,511	1,433,849
	12月末	14	5,104,860	4,936,332	2,170,298	2,292,118	1,409,935
大正11年 1922	6月末	16	4,962,272	4,930,295	2,102,912	2,263,769	1,316,075
	12月末	16	5,013,793	4,939,121	2,176,532	2,205,530	1,319,233
大正12年 1923	6月末	18	5,049,188	5,193,153	2,181,010	2,351,101	1,259,184
	12月末	18	4,973,717	5,455,439	2,135,621	2,622,600	1,267,284
大正13年 1924	6月末	18	5,025,288	5,717,226	2,133,768	2,785,939	1,261,512
	12月末	18	5,134,092	5,679,752	2,126,390	2,775,751	1,321,541
大正14年 1925	6月末	19	5,321,224	6,037,779	2,216,119	2,935,476	1,329,731
	12月末	19	5,403,085	6,144,491	2,200,026	2,877,018	1,377,616

備考

1. 上記貸出金中ニハ「コール・ローン」ヲ含ム。
2. 大正三年末現在手形交換所數十一ヶ所、東京、大阪、神戸、京都、横濱、名古屋、廣島、關門、金澤 函館、小樽。
大正五年六月ヨリ東京手形交換所勘定中へ日本勸業銀行ヲ算入ノ爲メ貸出金ノ著シキ増加ヲ來セリ。

全國六大都市手形交換所組合及代理交換銀行預金貸出高一覽表

三

及代理交換銀行預金貸出高一覽表

單位千圓

阪	神 戶		京 都		横 濱		名 古 屋	
	貸出	預金	貸出	預金	貸出	預金	貸出	預金
295,963	62,925	89,627	57,315	31,325	124,614	103,836	35,410	47,706
287,064	62,176	87,724	60,330	30,666	130,122	112,543	35,280	43,766
272,812	68,805	87,493	63,357	31,073	128,093	98,470	41,008	47,891
358,044	79,225	106,907	75,088	36,318	136,977	112,372	46,470	50,933
408,357	91,134	125,793	81,747	43,129	141,157	112,412	51,659	59,164
496,951	121,314	153,656	98,752	60,120	138,778	128,599	62,584	65,334
589,310	167,379	181,654	108,187	57,430	155,613	140,641	73,226	78,621
696,802	226,463	228,156	124,825	69,183	180,359	177,785	87,470	89,929
894,519	281,757	271,101	143,345	82,096	204,596	183,243	105,790	106,602
1,005,894	349,876	348,412	181,898	108,122	238,801	221,342	148,015	132,524
1,129,362	357,186	364,406	215,134	130,684	253,264	238,253	167,273	157,811
1,315,859	385,765	402,825	260,810	188,581	266,048	248,501	181,691	183,751
1,528,657	390,250	413,815	246,182	141,539	285,428	205,125	177,656	168,284
1,387,344	382,109	407,214	262,254	107,462	266,308	204,186	174,557	151,129
1,341,600	380,987	410,686	289,315	111,554	292,371	193,804	194,777	158,875
1,364,763	384,339	446,318	294,010	131,156	290,751	191,574	198,330	187,116
1,335,318	354,609	438,716	286,444	124,289	287,483	194,599	207,947	186,221
1,304,070	344,116	425,981	293,969	126,781	277,008	203,571	206,895	201,897
1,325,093	338,760	442,950	299,239	141,682	257,807	204,406	221,214	221,518
1,243,771	311,682	467,416	299,703	161,770	233,118	231,801	231,352	215,856
1,318,649	329,227	492,750	306,105	162,260	251,758	216,623	238,028	223,642
1,278,863	342,691	473,209	317,029	178,002	261,115	211,191	248,563	241,578
1,442,699	355,519	481,883	330,634	185,746	290,350	215,300	259,978	239,140
1,483,791	356,379	477,754	343,219	195,262	296,925	228,809	264,742	274,703

- 大正七年十二月ヨリ札幌手形交換所分算入
 大正八年六月ヨリ福岡手形交換所分算入
 大正十年六月ヨリ長崎手形交換所分算入
 大正十一年六月ヨリ新潟熊本兩手形交換所分算入
 大正十二年六月ヨリ岡山、仙臺兩手形交換所分算入
 大正十四年六月ヨリ松江手形交換所分算入

全國六大都市手形交換所組合及代理交換銀行預金貸出高一覽表

二

附表 No. 4

大阪銀行集會所組合銀行諸勘定増減一覽表

年次	拂込資本金 積立金額 割合	増減 割合	預金總額 千円 %	増減 割合	貸出金總額 千円 %	増減 割合	手形交換高 (一ヶ年) 總額 千円 %	増減 割合
大正 3 年	6月末	67.165	232.705		315.891		3,001.333	
	12月末	68.331	257.704	増10	305,443	減3		
大正 4 年	6月末	63.268	279.865	" 20	325.089	増2	3,398.876	増13
	12月末	63.027	336.896	" 44	374.581	" 18		
大正 5 年	6月末	67.352	369.450	" 67	428.915	" 3	6,035.160	"101
	12月末	76.471	494.277	"112	515.838	" 63		
大正 6 年	6月末	85.114	614.330	"164	607.122	" 92	10,847.575	"261
	12月末	96.741	813.088	"249	714.404	"126		
大正 7 年	6月末	116.951	994.761	"327	911.159	"188	17,800.399	"493
	12月末	136.834	1,223.559	"425	1,025.183	"224		
大正 8 年	6月末	144.533	1,323,102	"468	1,148.616	"263	23,515.651	"683
	12月末	168.732	1,449.094	"522	1,367.495	"333		
大正 9 年	6月末	255.014	1,404.796	"503	1,580.501	"400	24,427.547	"713
	12月末	243.519	1,396,530	"500	1,420.561	"349		
大正 10 年	6月末	257.621	1,480,208	"536	1,375.830	"335	23,955.456	"698
	12月末	279.578	1,479,722	"535	1,388.638	"339		
大正 11 年	6月末	287.573	1,387,749	"496	1,383.310	"337	23,816.370	"693
	12月末	293.262	1,285,983	"495	1,347.335	"326		
大正 12 年	6月末	308.144	1,317,178	"466	1,398.861	"342	23,993.188	"699
	12月末	308.640	1,345,510	"478	1,367.443	"332		
大正 13 年	6月末	301.869	1,331,170	"472	1,375.043	"335	26,880.402	"795
	12月末	285.818	1,395.435	"499	1,334.547	"312		
大正 14 年	6月末	291.258	1,414,564	"507	1,506.369	"376	27,577.760	"818
	12月末	295.159	1,460,995	"527	1,538.230	"387		

大阪銀行集會所組合銀行諸勘定増減一覽表

五

附表 No. 3

東京銀行集會所組合銀行諸勘定増減一覽表

年次	拂込資本金 積立金額 割合	増減 割合	預金總額 千円 %	増減 割合	貸出金總額 千円 %	増減 割合	手形交換高 (一ヶ年) 總額 千円 %	増減 割合
大正 3 年	6月末	153.641	410.295		435.426		4,490.126	
	12月末	204.890	448.209	増9	491.736	増12		
大正 4 年	6月末	207.768	500,624	" 22	510.819	" 17	5,187.411	増15
	12月末	210.081	561.305	" 36	532.376	" 22		
大正 5 年	6月末	211.981	661.319	" 61	622.385	" 42	9,083.119	"102
	12月末	218.821	821.026	100	724.701	" 66		
大正 6 年	6月末	227,539	942.365	"129	826.858	" 89	12,854.889	"186
	12月末	244.496	1,335.390	"225	1,040.597	"138		
大正 7 年	6月末	267.811	1,543.721	"276	1,308.578	"200	22,376.387	"398
	12月末	284.134	1,836.870	"347	1,493.005	"242		
大正 8 年	6月末	299.407	1,867.496	"355	1,763,781	"305	35,097.131	"681
	12月末	381.753	1,940.728	"373	1,801.783	"313		
大正 9 年	6月末	445.748	1,921.627	"368	2,036.449	"367	32,691.459	"628
	12月末	514.413	1,918.768	"367	2,137.100	"390		
大正 10 年	6月末	541.391	1,973.905	"381	2,303.259	"430	30,864.024	"587
	1 月末	584.257	2,019.540	"392	2,301.058	"428		
大正 11 年	6月末	624.067	2,027.700	"394	2,377.562	"423	34,013.835	"657
	12月末	663.628	2,112.038	"414	2,295.966	"427		
大正 12 年	6月末	688.692	2,090.692	"409	2,352,748	"440	30,715.120	"584
	12月末	759.683	2,079,541	"406	2,535.671	"482		
大正 13 年	6月末	778.307	2,069,516	"404	2,697,115	"519	30,739.301	"584
	12月末	807.421	2,060,216	"402	3,631.521	"734		
大正 14 年	6月末	815,343	2,153,151	"424	2,809,106	"545	37,320,355	"731
	12月末	826.470	2,108,036	"413	2,767,299	"535		

東京銀行集會所組合銀行諸勘定増減一覽表

四

附表 No. 6

大阪銀行集會所組合銀行本支店預金貸出增減一覽表

年次	本店銀行				支店銀行			
	行數	預金總高	增減割合	貸出總高	行數	預金總高	增減割合	貸出總高
大正3年	6月末	23 190.333		216.638	21 42.322		99.252	
	12月末	22 200.109 增5		214.449 減1	" 57.594 增36		90.994 減8	
大正4年	6月末	" 217.807 "14		227.309 增4	22 62.158 "46		97.730 "1	
	12月末	" 159.801 "26		250.317 "15	" 77.094 "82		124.067 增25	
大正5年	6月末	" 294.814 "54		287.196 "52	23 94.665 "123		141.748 "42	
	12月末	" 353.499 "85		333.673 "53	22 140.777 "231		182.165 "83	
大正6年	6月末	" 437.483 "129		404.333 "86	" 176.846 "317		202.789 "103	
	12月末	" 545.541 "186		429.441 "93	23 267.546 "512		284.963 "187	
大正7年	6月末	23 676.814 "255		561.581 "160	" 317.947 "651		346.577 "249	
	12月末	24 815.209 "328		599.980 "176	28 408.349 "864		425.202 "328	
大正8年	6月末	25 946.561 "397		721.074 "232	31 376.540 "789		427.452 "330	
	12月末	" 1,020.572 "436		851.158 "292	" 428.521 "912		516.337 "420	
大正9年	6月末	26 1,001.388 "426		1,029.493 "375	32 403.407 "853		551.008 "455	
	12月末	25 909.224 "377		883.617 "307	34 487.315 1051		536.914 "440	
大正10年	6月末	" 969.592 "409		861.094 "297	" 510.616 1106		514.735 "418	
	12月末	24 989.013 "420		877.487 "305	36 490.699 1059		511.151 "415	
大正11年	6月末	23 932.911 "330		867.257 "300	39 454.837 "974		516.052 "419	
	12月末	22 856.349 "403		855.976 "295	40 429.634 "915		491.353 "395	
大正12年	6月末	21 897.376 "372		893.565 "312	39 419.802 "91		505.296 "409	
	12月末	20 868.872 "357		813.337 "275	36 476.638 1026		554.106 "453	
大正13年	6月末	18 859.782 "352		836.925 "286	" 471.388 1013		538.118 "442	
	12月末	" 897.096 "371		844.625 "289	" 498.339 1077		489.922 "393	
大正14年	6月末	" 925.121 "386		933.475 "333	35 489.443 1056		567.894 "472	
	12月末	17 957.745 "403		1,002.187 "362	34 503.250 1089		536.043 "440	

大阪銀行集會所組合銀行本支店預金貸出增減一覽表

附表 No. 5

東京銀行集會所組合銀行本支店預金貸出增減一覽表

年次	本店銀行				支店銀行			
	行數	預金總高	增減割合	貸出總高	行數	預金總高	增減割合	貸出總高
大正3年	6月末	34 342.697		360.140	31 68.197		75.285	
	12月末	36 381.497 增11		431.470 增19	31 66.711 減2		61.264 減20	
大正4年	6月末	" 420.470 "23		437.277 "21	" 80.154 增17		73.541 "2	
	12月末	" 456.195 "33		451.121 "15	" 105.109 "54		81.255 增8	
大正5年	6月末	" 513.199 "10		517.769 "43	33 148.119 "117		104.615 "39	
	12月末	" 598.685 "75		601.299 "66	35 222.341 "216		123.401 "63	
大正6年	6月末	40 698.845 "103		656.757 "82	36 245.520 "260		170.101 "126	
	12月末	39 858.492 "150		798.657 "121	" 478.897 "603		241.939 "221	
大正7年	6月末	42 1,028.471 "200		1,011.884 "181	33 518.250 "660		196.694 "293	
	12月末	41 1,220.374 "256		1,133.705 "214	32 616.496 "803		359.300 "377	
大正8年	6月末	42 1,285.486 "275		1,315.760 "765	33 582.009 "753		448.021 "495	
	12月末	45 1,326.870 "287		1,334.076 "270	38 613.858 "800		467.706 "521	
大正9年	6月末	45 1,426.448 "317		1,619.517 "349	36 495.178 "626		416.932 "454	
	12月末	44 1,413.672 "313		1,686.389 "368	35 505.096 "640		450.710 "499	
大正10年	6月末	45 1,499.278 "338		1,807.718 "402	39 474.627 "596		500.541 "565	
	12月末	48 1,547.681 "352		1,788.766 "396	" 471.859 "591		512.291 "580	
大正11年	6月末	47 1,564.446 "357		1,732.812 "381	" 463.253 "579		544.749 "624	
	12月末	47 1,591.162 "365		1,759.411 "383	" 520.876 "663		536.555 "613	
大正12年	6月末	45 1,619.533 "373		1,781.121 "394	" 471.108 "590		571.627 "659	
	12月末	43 1,607.275 "369		1,913.789 "431	36 472.266 "592		621.882 "726	
大正13年	6月末	42 1,593.812 "365		2,022.306 "461	" 475.704 "597		671.809 "796	
	12月末	42 1,580.026 "361		1,958.013 "443	37 480.190 "604		1,673.508 2122	
大正14年	6月末	41 1,639.618 "379		2,033.376 "464	" 513.533 "653		775.730 "930	
	12月末	40 1,630.969 "376		1,965.769 "445	" 477.067 "600		801.530 "964	

東京銀行集會所組合銀行本支店預金貸出增減一覽表

附表 No. 8

最高△
最低×

東京大阪割引歩合比較表

月次	商業手形				紡績手形				擔保附手形			
	東京		大阪		東京		大阪		東京		大阪	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
大正十二年	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
一月	26.22	22.43	27.00	23.00	23.47	20.58	24.39	21.39	27.00	22.00	27.00	13.17
二月	23.00	22.00	26.82	22.78	23.00	20.00	24.78	21.30	27.00	22.00	27.00	23.74
三月	26.00	22.00	26.00	22.00	23.00	20.00	24.00	20.31	27.00	22.46	26.81	22.81
四月	26.16	22.25	26.00	22.00	23.16	22.33	24.12	22.08	27.00	22.33	27.00	23.00
五月	27.48	23.59	26.23	22.69	24.00	22.00	25.00	22.00	27.14	24.00	27.00	23.34
六月	28.00	25.80	26.00	23.26	24.00	22.00	25.46	22.65	27.00	24.00	27.00	24.00
七月	28.00	26.00	26.00	23.38	24.00	22.00	25.00	23.00	27.00	24.00	27.00	24.00
八月	28.00	16.00	26.00	23.65	24.00	22.00	25.00	23.00	27.00	24.00	27.00	23.83
九月	—	—	26.51	24.16	—	—	25.54	23.33	—	—	26.91	24.04
十月	23.00	24.00	27.24	23.90	24.00	22.00	26.00	23.52	27.00	24.00	27.75	24.16
十一月	26.96	24.50	27.00	24.00	23.40	22.00	26.00	23.26	27.00	24.19	28.00	24.38
十二月	27.15	24.69	27.00	24.00	24.38	23.19	26.00	23.00	27.00	24.00	28.00	24.38
大正十三年	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
一月	27.00	25.09	26.17	23.18	24.50	23.00	25.18	22.18	27.00	24.00	27.18	24.09
二月	27.79	25.20	26.00	22.50	24.79	23.00	25.00	20.91	27.00	24.00	27.00	23.45
三月	28.00	25.68	26.00	22.20	25.00	23.00	25.00	20.00	27.00	24.68	27.00	23.00
四月	28.00	25.04	26.24	22.44	25.24	23.30	25.24	20.85	27.00	24.24	27.24	23.44
五月	27.55	25.66	26.22	23.00	26.00	24.20	25.22	21.29	27.00	25.00	27.22	21.00
六月	27.45	24.83	26.00	22.80	26.00	23.00	25.00	20.88	27.00	25.00	27.00	24.00
七月	27.00	24.28	26.00	21.52	24.08	21.24	24.28	19.12	27.00	24.00	27.00	23.08
八月	27.00	24.00	25.53	20.65	24.00	21.00	24.76	20.36	27.00	24.00	27.00	23.00
九月	27.00	24.00	26.00	22.00	24.00	21.00	25.00	18.79	27.00	23.56	27.00	23.00
十月	27.00	24.00	26.00	22.00	24.00	21.00	25.00	18.10	27.00	23.00	27.00	23.00
十一月	27.00	24.00	26.00	22.00	24.84	21.84	23.72	18.84	27.00	23.81	27.00	23.00
十二月	27.00	24.00	26.00	22.00	25.00	22.00	23.00	19.00	26.55	24.00	27.00	23.00
大正十四年	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
一月	26.36	22.73	26.00	22.00	23.91	21.08	23.34	18.52	25.93	23.69	27.00	23.60
二月	25.00	21.54	26.00	22.00	23.00	19.60	23.08	18.08	25.30	22.71	27.00	23.17
三月	25.12	21.28	26.00	22.00	23.00	20.04	23.00	18.06	25.00	22.64	27.00	23.00
四月	24.56	20.96	25.52	21.52	22.56	19.96	22.40	14.82	25.00	22.12	26.52	22.52
五月	24.40	20.00	25.00	21.00	21.16	17.50	21.45	17.85	24.40	21.00	26.00	22.00
六月	23.65	20.57	25.00	21.00	21.34	18.91	20.57	17.03	24.88	21.88	26.00	22.00
七月	23.73	20.00	25.00	21.00	21.76	18.53	20.00	17.53	24.73	21.50	26.00	22.00
八月	23.12	19.12	25.00	21.00	21.40	18.12	20.00	17.56	24.12	21.12	26.00	22.00
九月	24.00	20.00	24.36	20.36	21.16	18.58	19.60	17.50	25.00	22.00	25.36	21.36
十月	24.00	20.00	24.12	20.12	21.00	18.50	19.64	17.92	25.00	22.00	25.00	19.56
十一月	24.20	21.10	23.29	20.29	21.79	19.10	20.25	18.41	25.00	23.00	24.33	19.79
十二月	25.00	21.50	24.00	21.22	22.00	19.50	20.77	19.50	25.00	22.00	25.00	19.92

備考 藤本 B.B. 銀行調査部調査

附表 No. 7

最高△
最低×

東京大阪コールマネー歩合比較表

月次	翌日拂				無条件				月越			
	東京		大阪		東京		大阪		東京		大阪	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
大正十二年	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
一月	17.69	16.56	17.50	16.28	18.35	17.43	17.59	16.75	22.25	21.26	21.36	20.35
二月	23.95	23.19	21.60	19.95	23.41	20.43	21.39	20.47	22.43	21.43	22.56	21.60
三月	22.02	21.00	20.54	19.46	22.06	21.06	20.65	20.12	23.50	22.50	23.00	21.96
四月	26.14	25.29	25.12	24.08	25.47	24.50	25.04	24.95	24.19	23.50	24.43	23.73
五月	19.05	17.92	20.88	19.50	19.42	18.55	20.88	20.58	23.00	22.03	23.76	22.84
六月	26.00	24.30	22.55	21.53	25.90	24.00	22.92	21.38	25.70	25.60	25.57	24.71
七月	20.48	19.04	18.72	17.40	20.56	19.62	19.45	19.04	22.70	21.83	22.91	22.08
八月	24.86	23.92	23.57	22.50	22.82	24.01	23.76	23.59	25.96	25.24	25.28	24.64
九月	—	—	20.75	19.58	—	—	21.95	21.20	—	—	24.21	23.08
十月	23.16	19.98	14.84	14.32	22.80	21.50	15.80	15.36	—	—	23.00	21.93
十一月	19.00	18.00	17.24	16.20	20.15	19.30	17.33	16.95	22.11	20.80	22.43	20.69
十二月	22.57	20.75	17.80	16.76	21.78	20.77	19.54	17.47	26.24	24.35	25.25	21.83
大正十三年	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
一月	21.06	19.93	18.77	17.68	21.63	20.68	19.22	19.31	23.61	22.68	22.52	21.71
二月	21.85	21.04	18.95	18.00	21.56	20.60	18.66	18.45	22.97	21.93	21.21	20.17
三月	20.88	19.94	19.64	18.76	21.20	20.32	19.40	19.36	23.22	22.24	21.62	20.25
四月	21.24	19.46	22.04	21.64	21.82	21.01	22.24	22.16	23.40	22.52	22.92	21.92
五月	18.59	17.29	18.55	17.92	19.22	18.62	19.22	18.96	22.46	21.71	23.11	22.34
六月	15.56	14.62	15.48	14.88	16.36	15.36	16.45	15.62	22.06	21.34	22.96	22.68
七月	15.24	14.28	13.80	13.20	15.20	14.70	14.32	13.72	18.57	18.08	19.10	18.32
八月	19.15	18.25	20.11	19.38	18.92	18.23	19.73	19.15	19.82	18.98	20.11	17.88
九月	16.64	15.54	16.33	15.79	16.68	15.94	16.83	16.37	19.26	18.72	19.15	17.70
十月	17.90	17.02	19.96	19.12	17.86	17.18	19.56	19.08	19.64	18.85	19.96	18.20
十一月	17.46	16.42	17.24	16.60	17.54	17.00	17.44	16.88	19.50	18.84	20.96	18.20
十二月	20.00	19.40	18.96	18.44	20.03	19.68	19.55	19.00	22.63	22.07	21.92	20.66
大正十四年	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
一月	18.63	17.54	17.65	16.69	19.02	18.52	17.91	17.86	20.65	20.30	19.86	18.91
二月	17.36	15.76	16.13	15.47	17.13	16.54	16.13	16.04	19.15	18.72	18.86	18.13
三月	18.86	17.98	19.68	19.04	18.96	18.51	20.20	20.16	20.46	19.94	19.84	19.12
四月	15.96	14.94	15.60	15.52	16.08	15.78	16.36	16.28	18.91	18.54	19.12	19.04
五月	13.74	12.62	13.58	13.04	13.81	13.50	13.97	13.93	17.08	16.66	17.08	16.85
六月	17.25	16.61	16.15	15.69	17.46	17.11	16.96	16.73	19.58	19.14	18.59	18.30
七月	15.73	14.23	14.30	14.23	15.75	15.25	14.65	14.57	17.98	17.75	18.38	17.88
八月	17.00	16.18	16.28	15.92	16.96	16.76	16.60	16.48	18.52	18.04	18.00	18.00
九月	17.28	16.20	14.72	14.48	16.96	16.58	15.16	15.08	18.50	18.04	18.14	17.53
十月	17.30	16.40	17.56	17.36	17.10	16.90	18.58	17.48	18.40	18.20	18.48	18.22
十一月	17.08	16.20	16.33	16.20	17.10	16.93	16.50	16.45	18.67	18.19	18.35	18.35
十二月	17.77	16.64	16.44	16.18	17.77	17.50	16.88	16.88	20.78	20.30	20.18	20.08

備考 藤本 B.B. 銀行調査部調査

東京大阪割引歩合比較表

九

東京大阪コールマネー歩合比較表

八

目次	頁數	正誤表	
目次五	六行目(紡績手形ノ頁數) 二〇〇	正	誤
三一	七行目 預金増加		
八三	十二行目 出來		
八五	十三行目 社債		
一四〇	十七行目 春滿と夏秋滿		
一五〇	十六行目 鐘數		
一六三	十一行目 千五百四十五萬		
一八八	十一行目 私は理論から云つて		
二二六	二行目 組育 綿糸布輸出		
		線糸布輸出	組育 云つて

附表

表名	場所	正	誤
附表二	大正十一年十二月末名古屋預金額	206.895	206.985
" "	" 十三年 " 京都 "	317.029	317.105
" 三	" 七年六月末預金總額	1.546.721	1.566.721
" 四	" 十一年十二月末拂込資本金積立金合計額	293.262	393.262
" "	" 十三年六月末貸出金總額	1.375.043	1.345.073
" 五	" 六年六月末本店銀行預金總高	696.845	696.835
" "	" 八年十二月末 "	1.326.870	1.326.470
" "	" 十一年十二月末本店銀行貸出總高増減割合	388	338
" 六	" " 支店銀行貸出總高	491.353	491.258
" 七	" 十二年四月翌日拂東京最高	28.14	16.14
" "	" " 五月翌日拂東京最高	19.05	19.25
" "	" 十三年六月月越 "	22.36	23.36
" "	" 十三年八月無條件大阪最低	19.15	19.75
" "	" " 十一月月越東京最高	19.50	19.53
" "	" 十四年 " 翌日拂大阪最低	16.20	17.20
" 八	" 十三年四月紡績手形東京最低	23.30	23.00
" "	" 十四年二月擔保附手形東京最高	25.30	23.02

大正十五年四月五日
大正十五年四月八日
大正十五年四月廿三日
再發



刷行版

著者

山室宗文

發行者

東京市本郷區弓町一ノ二五
鈴木利貞

發行所

東京市本郷區弓町一ノ二五
日本評論社

振替東京九六七八
電話小石川一九七一

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社秀英舍

印刷者 杉山退助

我國の金融市場

定價金貳圓參拾錢

東京朝日新聞
經濟部編

通俗財話 (百十版)

四六判 上製 二圓五十錢
三五〇頁 並製 一圓八十錢
送料 十八錢

東京朝日新聞
經濟部編

國際財話 (五十版)

四六判 上製 二圓五十錢
四三二頁 並製 一圓八十錢
送料 十八錢

東京朝日新聞
經濟部編

國際資本戰 (四十版)

四六判 上製 二圓五十錢
四一六頁 並製 二圓
送料 十八錢

東京朝日新聞
經濟部編
牧野輝智著

爲替問題十講 (五版)

四六判 定價 二圓
三六六頁 送料 十八錢

早大教授
北澤新次郎著

資本主義經濟と 社會主義經濟 (再版)

四六判 定價 二圓
二五五頁 送料 十八錢

東京朝日新聞
經濟部編

經營百態 (最新版)

四六判 定價 二圓
三三〇頁 送料 十八錢

大阪朝日新聞
經濟部編

商賣うらおもて (五版)

四六判 定價 一圓六十錢
三三八頁 送料 十八錢

大阪朝日新聞
經濟部編

商賣うらおもて (續) (最新版)

四六判 定價 一圓六十錢
三二四頁 送料 十八錢

遠藤麟太郎著

財政經濟私言 (最新版)

四六判 定價 一圓八十錢
三〇〇頁 送料 十八錢

堀江歸一、太田正孝、津村宏、秀松、下村、四博士監輯

通俗經濟講座

菊特製 上下二卷揃
上下二卷 定價 十五圓
二一三六頁 送料 五十四錢

通俗財政經濟大系

(全二十四卷)

三背皮六
五册洋
〇平均裝
頁均裝判

各册定價一圓五十錢
送料十五錢

<p>第一篇 國民經濟の話 「法博」堀江 歸一著</p>	<p>第二篇 經濟政策の見方 「時事」下田 將美著</p>	<p>第三篇 豫算の見方 「朝日」森田 久著</p>	<p>第四篇 税の見方 「朝日」森田 久著</p>	<p>第五篇 地方豫算と 地方税の見方 「朝日」森田 久著</p>	<p>第六篇 金融の見方 「朝日」西野喜與作者</p>	<p>第七篇 銀行の見方 「大朝」遠藤麟太郎著</p>	<p>第八篇 貿易の見方 「中外」新關 莊藏著</p>	<p>第九篇 外國爲替の見方 「時事」山崎 靖純著</p>	<p>第十篇 物價の見方 「時事」下田 將美著</p>	<p>第十一篇 商品取引の見方 一般商品篇 「日々」川西 正鑑著</p>	<p>第十二篇 商品取引の見方 重要商品篇 「日々」清水都代三著</p>	<p>第十三篇 食糧問題の見方 「朝日」八木 長人著</p>	<p>第十四篇 相場取引の見方 「時事」三浦 弘一著</p>	<p>第十五篇 會社の見方 「中外」小江 利得著</p>	<p>第十六篇 經濟團體の見方 「朝日」野田 豊著</p>	<p>第十七篇 運輸交通の見方 「朝日」宇野木 忠著 西野喜與作者</p>	<p>第十八篇 保險の見方 「時事」長永 義正著</p>	<p>第十九篇 植民及移民の見方 「大毎」松岡 正男著</p>	<p>第二十篇 工場經營の見方 「時事」堀川淳一郎著</p>	<p>第二十一篇 労働問題の見方 「時事」下田 將美著</p>	<p>第二十二篇 支那經濟の見方 「大朝」武内 文彬著</p>	<p>第二十三篇 米國經濟の見方 「大朝」和田 信夫著</p>	<p>第二十四篇 歐洲經濟の見方 「大毎」池田 龍藏著</p>
--------------------------------------	---------------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	---	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	--	--	--	--	--------------------------------------	---------------------------------------	---	--------------------------------------	---	--	---	---	---	---

47²

Yew — Ten (10)

9 + 1 = 10
Ku ichi

J
J

24. 8. 20

終

